

沿岸資源動向調査（マチ類）

加藤美奈子*

1. 目的

本県における重要な漁獲対象であるマチ類（深海性フエダイ科魚類）は、1980年をピークにその後急激に漁獲量が減少している（沖縄総合事務局農林水産部発行「農林統計年報」による）。このため、本グループ魚類の資源管理による資源保全が求められている。

そこで基礎となる漁獲データを取りまとめることを本調査の目的とした。

なお、本事業を実施するにあたり、情報提供頂きました（有）新垣水産、県農林水産部流通対策課に厚く御礼申し上げます。

2. 材料および方法

本グループの県内市場の水揚げ量は、沖縄県水産試験場漁獲統計で収集されている。しかしこれには、漁場位置情報は一部を除いて入力されていない。そのため、それを補うために以下のことを行った。

① 漁場聞き取り調査

マチ類の水揚げの多い県漁連市場（県内の水産物取扱量の半分以上を占める）でマチ類を漁獲している漁船に対して漁場の聞き取り調査を週2回程度行ってきたが、今年度より県外船籍船のマチ類を多く取り扱う水産会社に聞き取り調査を依頼した。それを表1に示した漁場区分を用いて「沖縄県水産試験場漁獲統計」のデータベースの追加入力した。八重

山漁協所属の漁船の漁場は、八重山周辺海域は、一括して「八重山周辺海域」とした。

② 漁獲実績報告書のデータベース化

県外船籍船（以下、県外船）で沖縄海域内で操業する漁船に対して、沖縄県は操業許可と引き替えに漁獲報告を義務付けている（「県外船底魚一本釣り報告書」。以下、報告書）。この資料には、漁場位置が記入されており、本土市場に出荷した場合は、その水揚げ伝票（またはコピー）も含めて提出される。報告書は、平成7年からあり、これを基に、県外船の漁獲状況をデータベース化した。県内市場（県漁連市場）水揚げ分は、「沖縄県水産試験場漁獲統計」のデータベースと関連づけて利用できるようにした。

3. 結果および考察

〔農林統計と漁連漁獲量の比較〕

沖縄県内の漁業者の水揚げ実績は、1980年の2,159 tをピークに減少し続け、2001年は340 tにまで落ち込んでいる（図1）。県内外の漁獲物が水揚げされる県漁連市場における主要な4魚種（ハマダイ・アオダイ・ヒメダイ・オオヒメ）の水揚げ動向も合わせて示した。

最も水揚げの多いアオダイは、主要4魚種の半分以上を占め、2001年は54%を占めている。アオダイは、比較的安定的に水揚げされているが、ハマダイやヒメダイは急激に減少している。かつては、

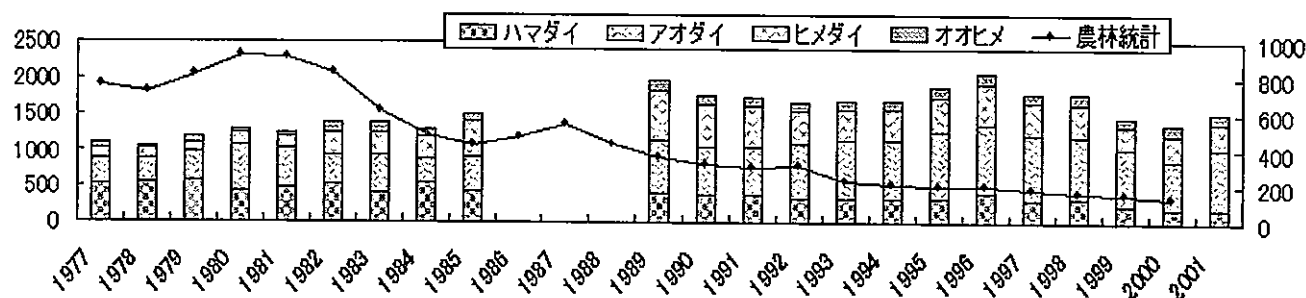


図1. マチ類の県魚連市場取扱量（喜屋武1987,および沖縄県水産試験場漁獲統計）と沖縄県内水揚げ量（沖縄総合事務局農林水産部）の変遷

注：単位はt。農林統計は左側の軸。それ以外は右側の軸を参照。

*現所属：沖縄県水産課

表1. 漁場コード対応表

コード	漁場名	コード	漁場名
101	伊平屋・伊是名島周辺	496	盲曾根
102	沖縄島北部西岸	500	東シナ海陸棚近辺(27°N以南)
103	本部・名護湾～伊江島	510	伊平屋島西方陸棚近辺
104	粟国島周辺	530	北東赤尾堆(久米島西方陸棚斜面曾根)
105	鳥島周辺	550	尖閣諸島周辺(含む魚釣, 赤尾, 黄尾)
106	久米島周辺	552	尖閣諸島, 馬曾根, 台湾曾根
107	渡名喜島周辺	553	尖閣諸島, 台湾曾根
108	まーく曾根(慶良間堆)	554	尖閣諸島, 馬曾根
109	沖縄南部～慶良間	556	尖閣諸島, 宝山
110	中城湾・金武湾～名護東岸	558	尖閣諸島, 東大九
111	沖縄島北部東岸	560	尖閣諸島, 西大九
150	硫黄島島周辺	562	尖閣諸島, 宝山, 東大九
170	硫黄島島堆	564	尖閣諸島, 宝山, 西大九
190	偉業曾根	566	尖閣諸島, 宝山, 東大九, 西大九
194	偉業曾根, 沖永良部島	600	東シナ海陸棚近辺中北部(27-30°N)
210	伊是名堆	620	東シナ海陸棚近辺北部(30°N以北)
230	伊江堆	640	東シナ海陸棚近辺全体
250	南北大東島周辺	700	与論島周辺
270	沖大東島(ラサ島)周辺	710	沖永良部島周辺
290	東大久曾根	720	徳之島周辺
310	西大九曾根	730	喜界島周辺
312	西大九, 東大九	740	奄美大島周辺
330	宝山曾根(宮古曾根)	750	旧式曾根(第一奄美堆)
332	宝山, 東大九, 西大九	780	トカラ列島周辺
334	宝山, 東大九	790	トカラ列島周辺の曾根
336	宝山, 西大九	820	大隅群島周辺
350	宮古島周辺	830	屋久島, 種子島周辺
352	宮古島周辺, 宝山	850	九州周辺
370	多良間島周辺	900	米寿海山
380	八重山全海域	920	硫黄島周辺
390	石垣・西表島周辺(含む波照間島)	930	スラ曾根
410	仲之御神島周辺	940	基陸北西陸棚近辺(尖閣諸島西方)
430	台湾曾根	950	紅頭礁周辺
450	馬曾根(含む中の曾根)	960	南シナ海
454	馬曾根, 台湾曾根	996	その他
476	与那国, 馬曾根, 台湾曾根	999	漁場不明
478	与那国, 宝山		
480	与那国, 尖閣諸島		

県漁連市場以外にも、まち類を多く取り扱っている市場（例：糸満漁協市場では、ピークの1980年に368 tの水揚げがあった）があったが、近年は少なくなっている。

【漁場位置】

県漁連市場における漁場聞き取り調査に基づく漁場の比率を図2に示した。また、回答を得た漁場海域を図3に示した。県内で最も多くまち類を漁獲している八重山漁協所属船は石垣島周辺海域の操業とみなして集計した。また、19 tクラスの比較的大型の県外船は、1航海あたりの航海日数が長く、漁場の移動範囲も大きいため、沖縄近海（魚釣島、大陸棚、尖閣諸島を含む）でまとめられている。

漁場別の比率で見ると、主なもので石垣島周辺が27%、ついで宝山・東西大九曾根が24%、尖閣列島周辺が10%となっており、県外海域で漁獲され

たものは6%だった。

【船籍別漁獲状況】

魚種による県内・県外船籍別の比率はハマダイ（図2-a）、アオダイ（図2-b）の2種類を示した。

まち類の中で高級魚とされるハマダイは、漁獲6割弱県内船が水揚げしている。これに対して、もっとも漁獲の多いアオダイは、75%を県外船が水揚げしている。そのため漁獲量全体は、県外船の水揚げの割合が大きい。

【漁場別魚種構成】

漁場判明分の内、漁獲量の多い石垣島周辺、宝山・東西大九曾根、尖閣列島周辺での漁場ごとの魚種構成について取りまとめたものが図5（a～c）である。また、漁場が確定しているもの全体の魚種構成についても図5-dに示した。全体は、アオダイが44%、ヒメダイが25%、ハマダイが12%、オオヒメが9

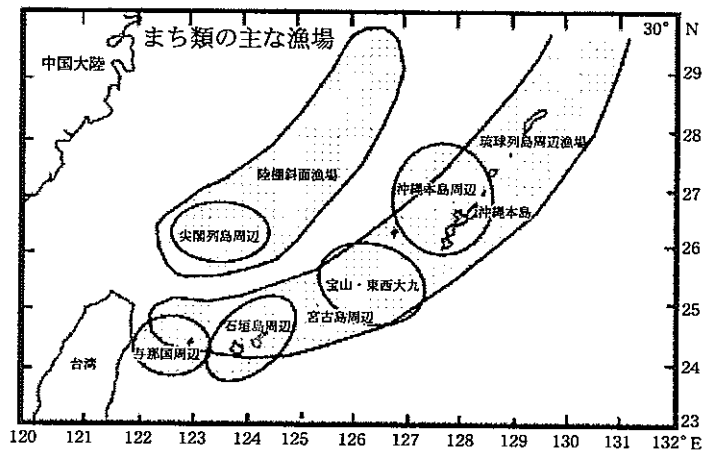
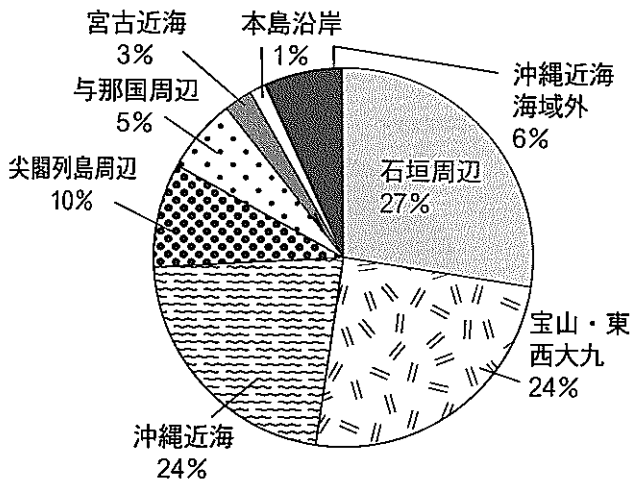


図2. 県漁連市場における聞き取り調査による漁場の比率（2001）

（沖縄県園芸振興課業務資料，水産試験場漁獲統計及び県漁連市場聞き取り調査より作成。）

図3. まち類の主な漁場

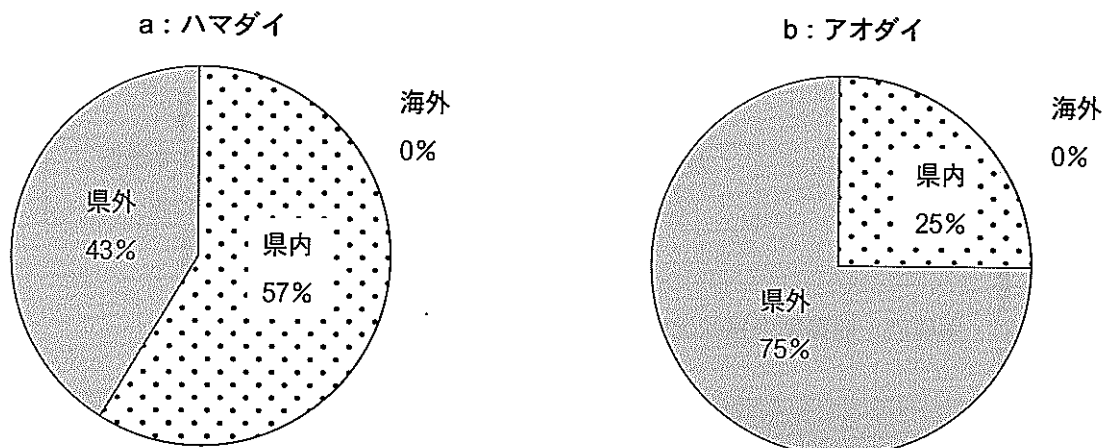


図4. 2002年県漁連市場における県内・県外・海外別漁獲比率

%であった。

石垣島周辺海域の場合、アオダイ 46 %、ヒメダイ 26 %、そしてシマアオダイ池が 14 % を占め、ハマダイは 1 % 未満だった。また、宝山・東西大九曾根は、ヒメダイが 52 %、アオダイが 34 %、オオヒメが 8 % だった。

3. マチ類関連事業と今後の課題

マチ類に関しては、別事業で生物学的な調査が行

われており、本事業は、統計情報および聞き取り調査による漁獲状況でのみ調査している。これら関連する事業において蓄積された情報が一元化されることで、今後計画されている資源回復化計画の策定の有効な基礎的資料となるものと思われる。

統計情報に関しては、既存のデータの再点検や、関連情報の追加等をさらに進め、データとしての質の向上と拡充を図っていく必要がある。

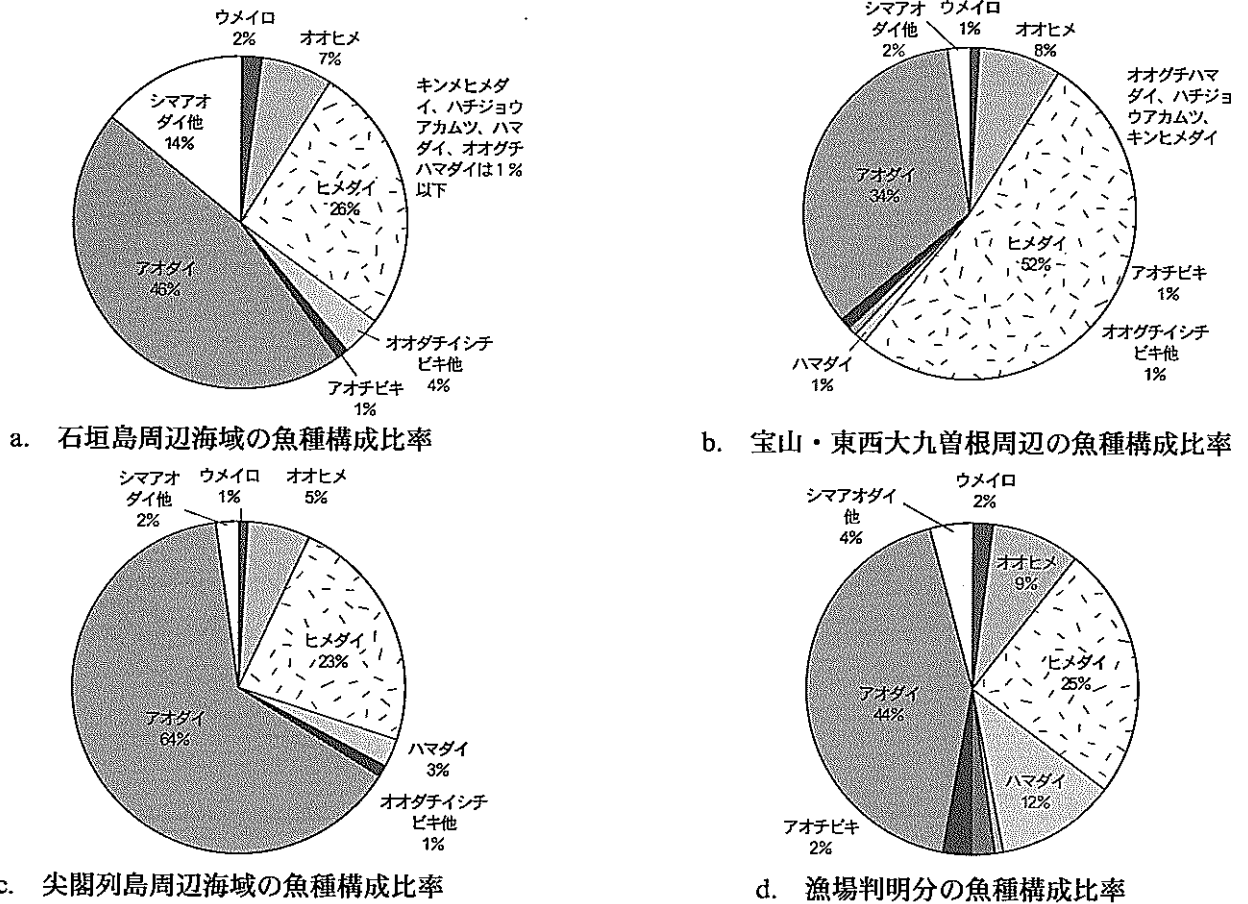


図 5. 漁場の確定分の漁場別魚種構成比率 (2001)

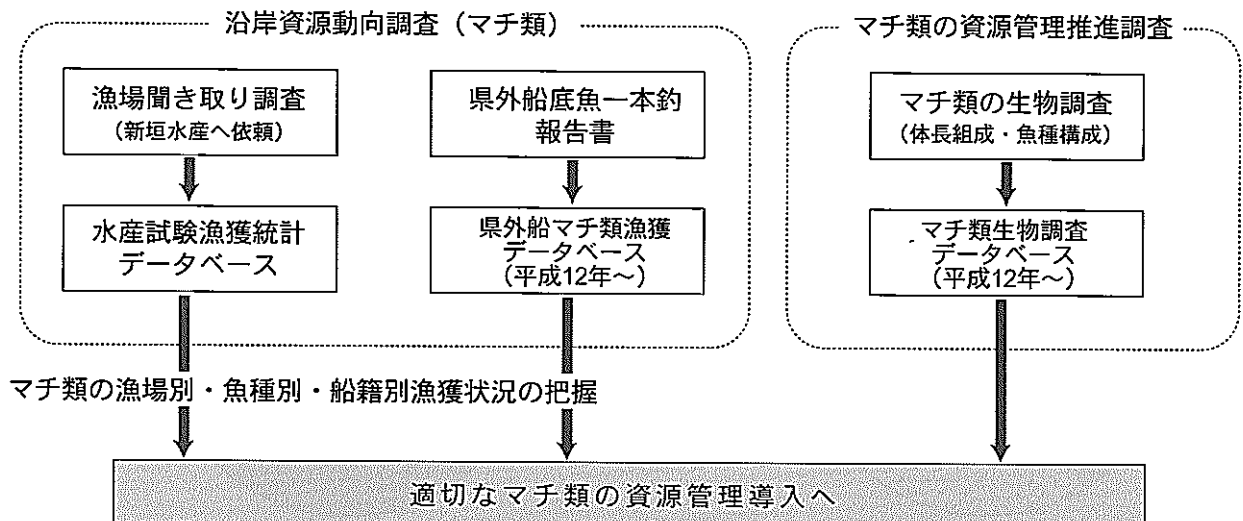


図 6. マチ類に関する調査事業関係